

(様式1-2) 新規評価シート

事業名		地すべり対策		路河川名等		-			
事業毎の通番		1	市町村名	長野市	箇所名(ふりがな)	長岩(ながいわ)			
事業概要	事業目的	本地区は、稲作を中心とした農業集落であるが、急傾斜の地形に加えて、第三紀層の岩盤上にルーズな崩積土が覆い、至る所に地すべり地形が見られる。集水地形で地下水が集まりやすいこともその誘因となっており、荒廃農地の進行に伴い、地すべり発生の危険性が高まっている。地すべり等防止法第3条により指定された地すべり防止区域において、対策工事を実施することにより、農地・農業用施設、人家、公共施設等に及ぶ地すべり災害を未然に防止することを目的とする。							
	しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-1 県土の強靱化(災害に強いインフラ整備)		事業実施の根拠法令等	地すべり等防止法				
	関連する事業、計画等	第3期長野県食と農業農村振興計画、第8次長野県土地改良長期計画、長野県強靱化計画、長野県地域防災計画、長野市道(大岡芦ノ尻御曹子橋線)災害復旧事業							
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	指定面積 61.20ha(農地 19.54ha) 農家戸数 12戸							
	着手年度	2020年度(R2)	事業期間	5年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)			
	完成年度(見込み)	2024年度(R6)	費用対効果	2.3		国庫	その他	県債	一般財源
	全体事業内容(主な工種)	横孔ボーリング工 L=360m 堰堤工(補修) N=2基		アンカー工 N=36本 排水路工 L=500m		130,000	65,000	-	58,000
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	地すべりから、人家・農地等を保全する							
	間接的効果(定量的・定性的)	過疎化、高齢化、担い手不足等の抑止・抑制につながる							
評価の視点	必要性	○保全対象の人家戸数：4戸(長岩 2戸、佃見 2戸) ○保全対象の公共施設：市道、集会所 ○保全対象の農地面積、農業用施設：農地 0.40ha(田 0.34ha、畑 0.06ha)						評価	B
	重要性	○過去の災害履歴：平成21年8月の地すべりにより、隣接市道に崩落が発生 ○交通遮断による地域経済への影響：市道通行止 ○地域防災計画上の位置付け：県及び長野市の地域防災計画に位置付け(地すべり防止区域「長岩」)						評価	A
	効率性	○費用便益比(B/C)：2.3 ○事業期間：5年間(R2~R6) ○工法等の比較検討：経済性による地すべり防止工事の比較検討を実施						評価	A
	緊急性	○地すべり滑動度：ひずみ 5000μ/月(平成30年10月)、変動A(確定地すべり) ○地すべり変状：平成29年10月に市道のクラック発生で、片側通行止、現在市道陥没 ○下流の堰堤等の整備状況：あり(概ね満砂)、ただしクラックが発生しているため要補修						評価	A
	計画熟度	○事業情報の共有：平成30年3月関東農政局地質官・市と現地調査。滑動状況等を定期会議で打合せ						評価	A
		○地域の取組：長野市から要望あり ○地域の合意形成：現在観測調査実施中、地元関係者に周知 ○住民との協働：地域から地すべり巡視員を配置、市・県への連絡体制あり OPDCA 事後・再評価からのフィードバック：1-5							
所管課意見	本地区は、活発な地すべり活動が続いており、市道が片側通行になるなど、市民生活に影響が生じているため、早急に対策工事を実施する必要がある。						採択状況	総合評価	
技術管理室意見	所管課の意見が妥当であると判断する。						○	A	
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	-		評価の決定	事業着手			

位置図

地すべり防止区域「長岩」
昭和48年3月14日付け
農林水産省告示第439号
(A=61.20ha)

平面図

A-4ブロック概要図

横孔ボーリング工

アンカー工

① 市道陥没(市道上部)

② 地すべり頭部クラック

アンカー工(イメージ)

事業概要説明図表

①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	昭和48年度から昭和62年度、平成22年度から平成26年度に、地すべり対策事業を実施している。平成29年10月、区域内上部の市道が沈下する地すべりが発生。その後も継続的に滑動が続いており、このまま放置すると、更に大規模な地すべりへと拡大し、二次的な土石流により、農地被害のほか住宅にも被害が及ぶ危険性が高い。また、当該地すべり下流の堰堤にクラックが生じており、下流への土砂流出が懸念される。
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	市道被災以降、H29に長野市との現地調査・打合せを4回、H30にボーリング調査(県2孔、市3孔)に着手し、打合せを2回実施した。また、R1に復旧に向けたスケジュールの打合せを実施した。地すべり巡視員が地域から選出されており、台風等豪雨後や地震発生後は、随時区域内の点検を実施している。異常等への対応は、必要に応じて県、市、地域で協議して実施している。
③事業説明等の経緯	市道の災害査定の実施(令和元年12月)により、復旧計画が決定されたため、長岩・佃見集落と芦ノ尻集落へ事業説明を実施した。
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	第3期長野県食と農業農村振興計画、第8次長野県土地改良長期計画、長野県強靱化計画、長野県地域防災計画、長野市地域防災計画に基づき、緊急的に地すべり対策を実施する。長野市道(大岡芦ノ尻御曹子橋線)の災害復旧事業と連携して工事を実施する。
⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	地形の形状変化を最小限とする工法を検討し、法面は植生工により緑化を図る。
⑥地域活性化への影響と配慮	被災した市道(大岡芦ノ尻御曹子橋線)は、長野市大岡地域の主要幹線道路の一つである。通行止による経済活動への影響は大きく、早期に地すべり対策を講じる必要がある。また、周辺の地すべり兆候箇所についても、必要な対策を講じることにより、民生の安定を図り、過疎化等地域の課題を解決する。
⑦その他	コスト削減、建設副産物削減を図る。

事業周辺環境

事後・再評価からのフィードバック	対策工効果検証のため、観測業務を実施する。	事業代表地点の緯度経度	北緯:N 36° 29' 02" 00 東経:E 137° 58' 03" 00
------------------	-----------------------	-------------	---